

令和6年11月19日研究公開報告

令和5・6年度大隅地区研究協力校研究公開

鹿屋市立高隈小学校で

「へき地・小規模校教育（算数科）」についての研究公開が開催されました。

令和6年11月19日（火）、鹿屋市立高隈小学校において、大隅地区研究協力校「へき地・小規模校教育（算数科）」の研究公開が行われました。研究主題を「協働的な学びを通して自らの考えを深めていく学習指導の在り方～極少数・複式学級における間接指導の充実を目指して～」として、令和5年度から2か年にわたり、極少数・複式学級における算数科の学習指導を中心に研究を進めてきました。

研究公開当日は、子供たちが主体的かつ協働的に学び、自分の考えを強固・付加・修正しながら深めていく授業となるよう、ガイド学習を進めるための支援や、自己の学びを把握・調整するための思考の可視化と振り返りの場の設定などが研究内容として示されました。そして、公開授業では、学びを深める子供の姿から研究の成果が伝わり、授業研究会では参加者同士の協議が深まる素晴らしい研究公開となりました。

【研究発表】

研修系の米重教諭は、高隈小学校の子供たちが多様な考えに触れる機会が少ないことや、思いや考えを表現することが苦手なために考えが深まりにくいという実態を踏まえ、研究に取り組んだことを紹介されました。

具体的な取組として、ガイドの発言キーワードやタイムスケジュール、話合いの視点を一体化した板書などを用いて、子供同士で学び合いながら学習を進める手立てを示されました。また、思考の可視化や自分自身の学びの状況・変容を把握するための学習過程ごとに設けられた振り返りの場についても分かりやすく説明されました。

そして、ガイド役の子供が主となって学習を進める様子を収めた動画や、振り返りの内容が分かる写真などから、研究の成果が具体的に伝わる素晴らしい研究発表となりました。



【研究発表の様子】



【公開授業：複式第1・2学年〔算数〕】

題材 1年「ひき算」
題材 2年「かけ算(3)」

1年生は、「11-2」の計算の仕方を考える学習でした。教師が用意した具体物を操作しながら、これまで用いてきた減加法に加え、11から1を引いて、更に引き足りない1を引く減々法があることに気付き、減法の計算の仕方を増やしてく様子が見られました。

2年生は、学習してきたかけ算九九の見方をし字型の場合にどう生かすかを考える学習をしました。ガイド役の子供を中心に「算数モンスター」を選んで解決の見通しを立てたり、互いの解決方法を比べたりする姿が見られました。また、教師が新たな見方のヒントを提示したことで「そうか」と目を輝かせながらノートに書き始める姿が印象的でした。

このように、両学年とも自分の考えを強固にしたり、付加したりしながら深めていく姿がみられました。



【構造化された板書〔2年〕】



【協働的な学びの様子】

【授業研究】

授業研究では、研究の視点に沿って、子供の学びの姿を基に協議が進められました。「ガイド学習を始めたばかりとは思えない。子供たりが前のめりになって学習していた。」「小規模校で協働的な学びは難しい点があると思っていましたが、教師側の工夫で取り組める。」といった意見が交わされ、ガイド学習の充実や協働的な学びを実現するための方策が話題となりました。さらに、高隈小の研究内容は、単式学級の学習指導にも生かせるという話題になるなど、広がりのある協議となりました。



【授業研究の様子】

